

立正大学文学部文学科英語英米文学専攻コース NEWSLETTER VOL. 02

Faculty of Letters | Risho English | May 20, 2024

2024年度オープンキャンパスのお知らせ

今年度の来校型オープンキャンパス（品川キャンパス）は以下の日程で開催します。英文コースの模擬授業にぜひご参加ください。

- 6月16日(日) ゼミで学ぶ『アメリカと黒人差別』（デンドウ ゲーリー）
- 7月14日(日) ゼミで「ことば」の研究をしよう：心にとどく英語とは（井川壽子）
- 8月17日(土) 立正大学英文コースと英文学教育（大野龍浩）
- 8月18日(日) AI時代の英語力——本学の入試問題も例に（今井亮一）



英文コースおすすめ授業「翻訳入門」

小説、詩や歌詞、漫画や絵本、エッセイなど、さまざまなジャンルの英文を実際に日本語に訳し、「いい翻訳」とはどんなものか、みんなで実践的に考えていく授業です。たとえば、絵本の一節として“Happiness is an umbrella and a new raincoat.”とあったら、どんな風に訳しますか？ 23年度の授業で提出された実際の学生訳をいくつか挙げると……

- (1) 幸せとは傘と新しいレインコートだ。
- (2) 幸せって 新しいレインコート着て 傘をさして歩くこと
- (3) しあわせは、傘と新しいレインコートのことよ。
- (4) 雨でも楽しく出かけてみよう。
- (5) 雨傘とあたらしいレインコート。しあわせ。

漢字で「幸せ」の方が読みやすいか、ひらがなで「しあわせ」のほうが絵本っぽいのか？ (1)のように原文のシンプルさを維持するか、(2)のように少し説明を加えて分かりやすくするか、(3)のように「しゃべっている」感じの文体がいいのか？ (4)のようにシンプルかつ分かりやすく、でも原文からは離れてしまうのがいいか？ (5)のように「しあわせ」を文末にするのはどうか？ 「和訳」するのは簡単ですが、「翻訳」となると、こんな風に様々な要素を考えることとなります。そんな「様々な要素」をみんなで考察する授業です。

授業は訳文を全員で練り上げていくディスカッションが中心です。英文和訳として不正確であれば「間違い」ですが、翻訳に「正解」はありません。上の(1)～(5)もどれかが「正解」というわけではありません。だから授業も、「教員が正解を教える」という講義では**ありません**。ディスカッションを通じ、正確な英語読解力と豊かな日本語表現力を実践的に身につけていく授業です。（アメリカ文学・比較文学 今井亮一）

留学体験記(1) 4か月間のアメリカ留学を終えて

私は子どもの頃からアメリカの文化に興味があり、将来は留学してみたいと思っていました。大学3年生のとき、アメリカ合衆国メイン州にあるサザンメイン大学（University of Southern Maine）という大学に留学することができました。授業はリーディングやライティングなどの英語4技能のほかに文法や語彙のクラスなどがあり、グループワークやペアワーク、プレゼンテーションを通してクラスメイトと話す機会が多くありました。また、キャンパスの外で行われるフィールドトリップでは、ポートランド市にある歴史的建造物や観光名所に行き、そこで学んだことが次の授業で取り上げられました。クラブ活動としては、私は「Students Without Borders」というクラブに所属し、毎週金曜日にはPortlandキャンパスでのミーティングに参加しました。このクラブが開催した「Travel around the World」というイベントでは、日本を紹介するボードを作って展示しました。



サザンメイン大学ポートランドキャンパス（University of Southern Maine HPより）

留学当初は自分の英語に自信がなく、誰かの前で間違えたくないという思いから、英語を話すことに躊躇していました。しかし、英語を上達させるには間違いを恐れず積極的に話していかなければいけないことにより、やがて気づき、できるだけ英語を話すようにしました。そのうちに、英語を話すことがとても楽しいと感じている自分に気づいたのです。挑戦することを恐れずに自ら行動していくことは、その先の人生をすべて変えることだと学びました。自分が留学で経験したことは、これから生きていく上で自分の励みになると思います。なによりも、留学ですばらしい友人たちに出会えたことが留学中で得た1番の宝物です。（英米文学専攻修士課程1年 R. N.）

留学体験記(2) ニュージーランド語学研修の経験



オタゴ大学ダニーデンキャンパス（University of Otago HPより）

私がオタゴ大学（University of Otago）の夏期研修に参加した理由は、小さい頃から留学や海外に憧れがあり、行ってみたいという好奇心と、現地に行って視野を広げたかったからです。立正大学にニュージーランドへの語学研修があるということを知り、大学生である今しかこんな貴重な体験はできないと思い、応募を決めました。

私が参加した4週間の研修は、大学のランゲージセンターで行われました。英語の文法や表現、ボキャブラリーを学び、現在完了や関係代名詞など曖昧になっていた文法を改めて学び直すことができました。クラスのルールとして教室内では日本語を話すことが禁止でしたが、そのことによって相手に伝えたい単語を調べ、ボキャブラリーを増やすことができました。

私はこの4週間ですばらしい経験をしました。ニュージーランドという国の文化に触れ、ニュージーランド人の優しさに触れ、この体験は何歳になってもきっと忘れない思い出です。社会人になれば4週間という長い休みを取ることは難しくなるため、留学は大学生のうちに行くべきだと思います。今しかできない、非常に有意義な時間だったので、ぜひ行ってみてください。

（英文コース3年 M. K.）

高校の先生方へ

いまなぜ「学習英文法再考」なのか？

ご承知のとおり、現在は高等学校の学習指導要領の英語の科目が改訂され、「英語表現Ⅰ・Ⅱ」が「論理・表現Ⅰ～Ⅲ」になっています。授業用教科書も「論理・表現Ⅰ～Ⅲ」を教えるための教科書に変わっていますが、改訂前の教科書と比べ、一般に、文法事項の説明が激減し、発話の場面中心の構成になっています。アクティビティを行うにも、新たに文法理解を助けるための教材を準備して指導しなければならないという話を耳にします。

いかに時代が変わろうとも、日本語を母語とする中高生にとっては、英語は外国語であることは変わりません。異なる歴史的背景をもち、音声も形態も文の構造も違う新しい言語に向き合うためには、「触れて慣れる」だけでなくそのことばの「道理」を納得することも大事ではないかと思います。人はなかなか「気づかない」ものです。たとえば、進行形ひとつにしても、大人の英語話者は、何のために、どんなときに活用しているか、生徒たちはわかっているでしょうか？ふだんは当然のように規則として学んでいることに「なぜ？」と問いかけることによって把握のしかたが変わる可能性もあると思います。

アクティビティ主体の授業の勉強会が多数存在するいっぽうで、「英語そのものの知識を深める」勉強会が決して多くはなさそうであるという状況を鑑み、立正大学文学部文学科英語英米文学専攻コースでは「学習英文法再考」の勉強会（6月の金曜夜間、および、夏季休暇中の8月20日（火））を企画しました。場面に応じた高度なコミュニケーションの技能を磨くことが重要な時代だからこそ、どういう知識が必要か、この機会にいま一度、ご一緒に見直してみませんか。

みなさまのご参加をお待ちしています。（英語学・言語学 井川壽子）

金曜夜の4回連続講義（無料：各回完結）

19:20-20:50 於：立正大学品川キャンパス 13号館 1354教室

第1回 6月7日(金) 「自動詞/他動詞と意味役割（項構造）」

第2回 6月14日(金) 「SVOCの多様な姿と5文型の教育」

第3回 6月21日(金) 「敬語と文法」

第4回 6月28日(金) 「形容詞の機能：修飾と叙述（分詞の前置/後置修飾など）」

夏休み特別講義（無料）

「学習英文法再考：教えるために必要な英語の知識」

8月20日(火) 10:00-16:00 於：立正大学品川キャンパス 13号館 1352教室

【問い合わせ先】 ikawah@ris.ac.jp（井川壽子）

出張授業のご案内

英文コースでは、高校生のみなさんに大学の授業や学生たちの研究活動などを知ってもらうために、本学でのオープンキャンパス以外に出張授業をおこなっています。進路選択を考える機会のひとつとして模擬授業を体験してみませんか？出張授業を希望される方、そのほかのご質問やご相談がある方は、下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】 elit@ris.ac.jp（英語英米文学専攻コース教務助手）